



かどや通信

第40号

発行日：令和2年9月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

三密対策万全！ 庭で待望のコンサート

かどやでは、ほぼ毎月「昼下がりコンサート」を実施してきており、今年二月には九十六回を数えた。五月には百回記念コンサートも計画していたが、新型コロナウィルスの発生により、コンサートは自粛せざるを得なくなった。

そんな時、「伊勢市出身の素晴らしいアーティストがいるので、是非かどやでコンサートを開いてほしい」との依頼が舞い込んだ。

そこで、三密対策として、会場を室内から庭に変更し、演奏時間も二十分に短縮し、午前と午後の二部制にして実施することになった。

《新進気鋭の演奏家登場》

ところが、又々のコンサートにしてはかなりの地味な尺八の、しかもソロコンサートなのだ。かどやでも箏の演奏会には尺八が参加することはあったが、古典的な楽器で、しかも独奏に、果たして人が来てくれるのか、かなり不安な幕開けとなった。

しかし、「コンサートは、「尺八ハイ」ール古典芸能」という概念を覆す、



モダンでポップな演奏で、驚く程の盛り上がりを見せた。それ

もそのはず、演奏者の竹内洋司さんは昨年、三重県文化新人賞を受賞した新進気鋭の演奏家だったのだ。

竹内さんが尺八を始めたのは、演奏家としては遅い二十四歳の時。国際尺八コンクール(2012年)優勝者の岩田卓也氏の演奏を聴いてからだった。岩田氏は、古典的な奏法にとられず、ジャズやポップスなどの幅広いジャンルに挑戦しており、尺八の新たな魅力を開拓して海外からも注目されている。その岩田氏の演奏に魂を揺さぶられた竹内さんは、即岩田氏に師事して練習を重ねた。そして、五年前からは「尺八を身近に」「伝統の革新」をスローガンに、演奏行脚と称し、全国制覇を目指して演奏活動を重ね、修行に磨きをかけている。

ところで、コンサート当日の天気予報は雨だった。演奏会場は米蔵前

で、スナージとなる場所には屋根があるが、客席には屋根がないので、お客様には屋内から音を楽しんでいただけよう準備していた。早朝には予報どおり雨で雷まで鳴っていたが、演奏前にはからりと晴れ上がったのである。とはいえ、午前の部は館内にとどまるお客様が多かったが、午後のお客様は全員庭に出て雨上がりの爽やかな風の中で演奏を楽しんだ。

演奏は古典の曲も含まれていたが、岩田氏直伝の現代的な奏法によるポップス系の曲も披露され、演奏会を待ち焦がれていた人々たちを魅了した。

「コロナ禍で演奏の機会をなくしていた竹内さんも「又々に人前で演奏できて、ありがたかったです。お客様が音楽を楽しもうとされている感じも伝わってきて、わかって、楽しく演奏することができました」と、話してくれました。



お年寄りのつぶやきが聞こえる

介護現場を描いた詩集展

八月の展示は、「デイサービス」の現場にスポットを当てた山本重子さんの詩集『支えられて』から抜粋した詩をパネルや掛け軸等にして紹介したもので、約二十五点が披露された。

山本さんは約二十年前から津市や伊勢市の「デイサービス」施設に看護師として勤務しており、七十才を超えた今も伊勢市内の「デイサービス」施設で活躍している。

「介護施設というと暗いイメージを持つ方もおられますが、実は友達も出来る楽しい場所だということを私の詩を通して、これから利用する方やご家族の方々に知っていただければ嬉しいのです。利用者の皆さんが施設の中でどのように過ごしているか、実態を知らない介護を受けているのか、実態を知つてもいいと思います。」



詩を書くようになったのは数年前、当時九十四歳の

明日もよろしく

こんな所にもいても仕方ない
何もすることもない
ちっとも楽しくない
家に帰れば用事がいっぱい
(中略)「明日は来ません!」
絶対来ません!

『支えられて』より

通い続けて二年目のおじいちゃん
一日過ぎて帰りの時間
車に乗って降りる時
手を振り笑顔で
「明日もよろしく!」

女性が入浴後、鏡に向かって生き生きと化粧する姿に感動したことがきっかけだった。以後、「デイサービス」施設で過ごす利用者の言葉や想いを題材に詩を作るようになり、2012年には山本紫苑(むらさき)のペンネームで初の詩集『支えられて』を出版し、2017年には『支えられてII』を發表した。どの詩もスタッフに支えられながら元気に過ごす利用者の様子が優しい目線で描かれている。来場者からは「いつかは自分も通る道ですが、こんな風に過ごせればいいですね」等の感想が寄せられた。かどやでは現在、山本さんの詩集を販売中だ。展示を見逃された方は、是非かどやに!

スーパードリオの作品展

九月の展示は、伊勢市在住の三人による「草木染シルク手織りと古布創作服の作品展②」。出展者の平均年齢はなんと七十四歳だ。三人の得意分野は異なるが、長年積み重ねてきた技術が光り、来場者をうならせている。

八十歳代の福田雍子さんは、和服の生地を再利用したチュニックやブラウス、ベスト、ジャケット等十七点を出版。圧巻は藍をベースにした作品で、傷んだ部分には刺し子



やパッチワークをほどこしているが、随所に気の利いた仕掛けが隠されている。「どっという色を合わせていくかを考えるのが大変なんですよ」というが、四十年以上も油絵を描いており、そこで培ったセンスが生かされているのだ。

七十歳代の小林宜子さんは、茜や茶、クチナシ等で染めたスカーフや、それらを手織りしたマフラー、ポシエット、バッグ等、約八十点を展示



した。モダンアート協会会員の小林さんは県内外で個展を開いている。柔らかな風合いや、手織りの色の組み合わせに、小林さんの個性が光っている。

福田さんと小林さんは昨年十二月にもかどやで作品展を開いたが、今回は六十歳代の小野洋子さんが加わった。小野さんは全国各地にファンがいるジュエリーデザイナーだ。毎年各地で新作発表を行っているが、今年はコロナの影響で発表の機会を逸していた。福田さんと小林さんは小野さんと旧知の仲であり、小野さんも古布を使った創作服を作っていることから、急遽三人展の運びとなったのだ。ジャケットやワンピース、帯で作ったカバン等、約四十点に加え、得意の指輪やネックレス、ブローチ、イヤリング等約百二十点も出展している。

三人展は「バラエティに富んでいて、楽しい」と、好評だ。



点描画教室スタート! 下絵作りに四苦八苦

「第一回点描画教室」が九月十三日に開催され、小学二年生から七十歳代まで六人が参加した。

当教室は六月の「豊田育子の点描画作品展」の展示期間中に行った体験教室が「時間を忘れて楽しかった」と好評で、教室開設に至った。

体験教室では、講師の豊田さんが準備した下絵に、参加者が専用のゲルボールペンを使って無数の点を描いた。色を決めたら、その後は「テンテンテン」と無心に点を描いて完成となった。



ところが今回の教室では「下絵が自分で書ければ、どこでも点描画を楽しむことができるので、頑張っ！」と激励し、まずはコン

パスと定規を使い、基本的な下絵を描くことから始まった。

コンパス等を使い慣れている小学生はスイスイと下絵を完成させ、色付けを楽しんだ。一方、熟年組はコンパスを握ることが久々だったため、下絵作りに四苦八苦した。しかし、「脳トシになるなあ」と、気分を切り替え、作品作りに集中した。豊田さんは、生徒さんの進み具合に応じてテキパキと指示を出したので、苦戦しながらも、楽しそくに点描画を完成させた。

当教室は、毎月第三土曜日の午後一時半から三時に開催する。学割もあるのです、子供さんもご参加を。

かどやは和服がよく似合う!

老舗呉服店様来館

まゆみ塾でお馴染みのまゆみさんの紹介で、天保十一年(1840年)創業の有限会社すかや呉服店(多気郡多気町)のお客様が九月五日、



かどやで優雅なひと時を過ごした。すかや呉服店様は、お客様にもっと和服に親しんでもらおうと定期的に撮影会や京都ツアー等のイベントを実施している。今回は、同店の顧客でもあるまゆみさんが「秋の風情あふれるかどやで遊ぶ」をテーマに企画した。

まゆみさんは、かどやのそここに秋の花を飾り、さらにまゆみ塾風秋色テーブルコーディネートも展示した。かどや館内を見学後、座敷でまゆみさんがお点前を披露。さらに、BGMとして、かどやスタッフでピアノ教師のまーちゃんが、明治三十年代に松阪で製造された長尾オルガンを演奏するサプライズも。お客様はタイムスリップしたような穏やかな雰囲気存分に楽しんでた。



《待望の「まゆみ塾」再開!》

「第十四回まゆみ塾」が八月二十九日に八ヶ月ぶりに開催され、午前の部に四人、午後の部に二人が参加した。

同塾は講師のまゆみさんの幅広い知識と優雅な品性に加え、採算度外視のサービスで人気を集めていた。テーブルコーディネート案を練り、花屋さんに花を手配。塾前夜には当日の内容を見直すだけでなく、手製のお菓子まで徹夜に近い状態で準備。さらに、足りない花があれば当日の早朝に近くの野山を駆け巡って集めてくることもあるのだ。ついに「体がもたない」と、内容を見直していた時にコロナ騒動勃発。そこで、やむなく手作り菓子やティサービスは中止し、本来のテーブルコーディネートに特化することに。多少物足りなさを感ずる方もいるかもしれないが、二部制にしたことで、参加者一人ひとりにじっくりと対応することができ、今回も「楽しかったわ」と、満足度は高かった。



新たな講座を開講!

コロナ禍でかどやの教室も自粛傾向だったが、感染防止対策を取りながら、「芸術の秋」にむけた、新たな講座が開講される。

《一閑張りに挑戦しませんか?》

「一閑張り体験教室」みかんかごを作ろう」が十月十八日と二十四日に開催される。これは、七月の一閑張りの展示が好評で、見学にいられたお客様からの「私も一閑張りをやってみたい」というリクエストに応えたもの。

今回は、一回目(十八日)に骨組みとなるかごに下張りの紙を貼り、二回目(二十五日)で本張りとなる柿渋を塗った紙を貼るといふ基本を習得していただく。

時間：午後一時半～三時半
 参加費：五千円(二回分・材料費込)
 持参品：はさみとエプロン
 定員：十名(先着順)

申込締切：十月八日
 講師：マチノヤヨイさん(フコの箏奏者で、姉御肌の気さくなお姉さん。楽しいよー)



《スワロフスキーで

オリジナル作品を作ろう!》

「誰もが手にすることが出来るダイヤモンド」と言われ、光ものが好きな世界中の女性を魅了している「スワロフスキー」を使って、あなただけのオリジナル・ジュエリーが作れたら素敵ですよ? そんな女性の夢を実現する講座を開講します。初回はネックレス作りです。



記

日時：十月十二日(月)午後一時～三時
 参加費：千五百円(材料費別)
 定員：五名(先着順、定員が限られていますので、かどや保存会会員を優先させていただきます)

講師：中谷幸美さん(スワロフスキー社認定・JGA(日本グルーテコ協会認定講師))

両講座とも参加者募集中!

◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効にご利用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和2年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

昨年度の会員数は311名で、前年度より約50名減少しましたが、令和2年度も9月15日現在で252名と減少傾向が続いています。新型コロナウイルスが社会全体に大きな影を落としている昨今ですが、スタッフ一同皆様の憩いの場所となるよう日々努力を重ねておりますので、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。本年度の会員登録がまだの方は、登録を何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751